

地域の概要

1. 基礎データ

仙台市
人口：1,060,008人（R7.4.1現在・住民基本台帳）
面積：786.35 平方キロメートル
過疎地域等指定：山村（旧秋保村、旧広瀬村、旧大沢村、旧根白石村）
高齢化率：25.42%（R7.4.1）
協議会開催数：3回
公共交通ワーキング開催数：6回（R7.4 ～ R7.12）
地域交通ワーキング開催数：3回（R7.4 ～ R7.12）

2. 公共交通の概況（R7.4.1）

【タクシー】

運行：タクシー事業者42社
エリア：仙台地区

【乗合タクシー】

運行：相互タクシー（株）、（有）高砂タクシー、（株）青葉タクシー、2525タクシー（株）、（株）キュットライフ、KM仙台タクシー（株）、（有）秋保交通、稲荷タクシー（有）
エリア：青葉区新川地区、宮城野区燕沢地区、田子・余目地区、岡田・鶴巻地区、若林区六郷東部地区、太白区坪沼地区、秋保地区、生田地区、郡山・八本松地区

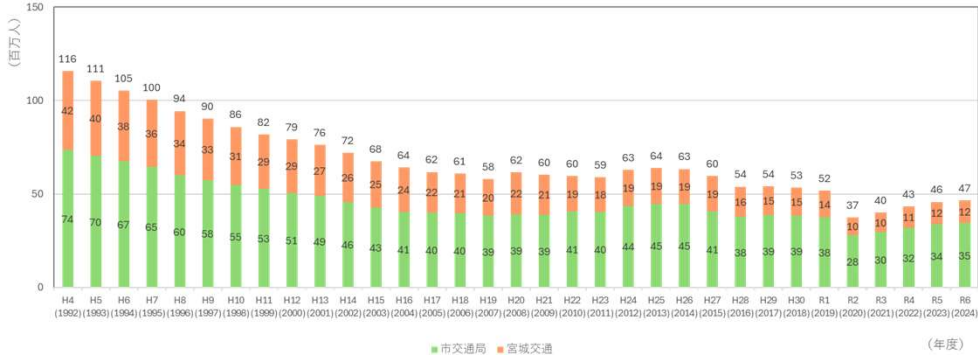
【フェリー】

運行：太平洋フェリー（株）
路線：2路線

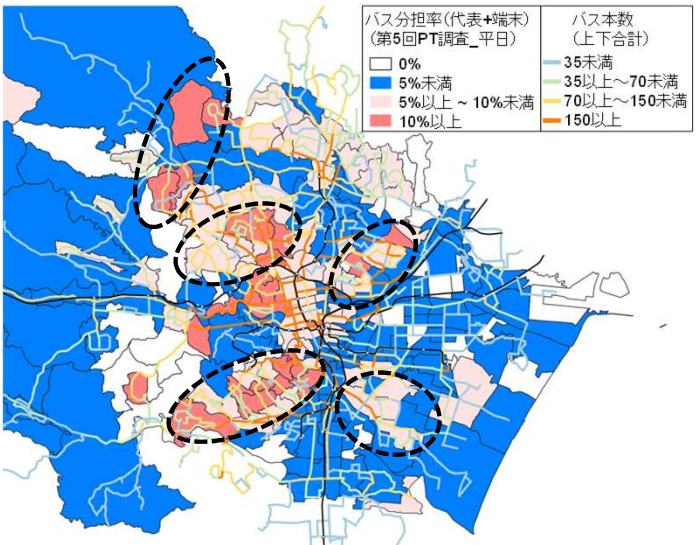
バス事業においては、運転士不足や長期にわたる乗車人員の減少傾向から厳しい経営状況が続いているが、公共交通を中心とした交通体系は、都市の基盤として、広域的な交流・連携や、通勤・通学・通院などの日常生活における移動を支え続ける必要があり、公共交通機関の安定運行や地域主体の移動手段の確保等に向けて、安定的・効率的な公共交通体系の構築が喫緊の課題である。

3. 公共交通の問題点

- ① 人口は近い将来にピークを迎えた後、緩やかに減少し、高齢化が今後も進む見込みであり、人口減少に伴う公共交通の利用者の減少・高齢化による移動制約者の増加が懸念される。
- ② 鉄道利用は増加傾向にあるが、路線バスは長期間の乗車人員の減少傾向から経営状況が厳しい。
- ③ バスの分担率は4%程度だが、鉄道・地下鉄沿線から外れた地域ではバスの分担率が比較的高い。
- ④ 大型二種免許保有者の減少により、バス運転手の確保が困難な状況にあることに加え、バス車載機やバス営業所建物等、施設設備の更新に多額の費用が必要となる。
- ⑤ 都心部では歩行者が仙台駅周辺に集中し、都心内での回遊性が低くなっており、公共交通等による都心の回遊性強化が求められる。



【バス乗車人員の推移】



【地域別バス分担率（平日・代表+端末）（2015）】

【課題】

公共交通力カバー圏の維持や公共交通による中心部や鉄道駅へのアクセス利便性確保

マイカーを持たない世代や高齢者などへの移動手段の確保

都心回遊性の向上

既存サービス・制度との調整・整合

【地域公共交通計画における基本方針】

- 基本方針1 公共交通軸の形成・機能強化
都心と拠点にアクセスできる公共交通軸の設定と強化により、機能集約型の都市づくりを目指す。
- 基本方針2 路線バスの利便性向上
路線バスの効率性と利便性の向上により、持続可能な公共交通のサービスの確保を目指す。
- 基本方針3 地域交通の維持・確保・充実
地域のニーズや実情に応じた地域主体の移動手段の維持・確保・充実により、自由に移動ができる生活の実現を目指す。
- 基本方針4 都心回遊交通の強化
都心での多様な活動や利便性を高めるため、公共交通等による都心の回遊性強化により、まちなかの賑わいの向上を目指す。
- 基本方針5 公共交通のシームレス化・利用促進
公共交通を中心とした、持続可能な交通体系を構築するため、複数の交通手段を組み合わせた移動に関する利便性の向上により、誰もが利用しやすい公共交通サービスの確保を目指す。

【公共交通に関する目標と基本方針】

※記入する際、枠の大きさの変更及び次頁に作成することも可能とします。

調査結果概要

■ 検討箇所

- [illegible]

市民との協働により、地域の実情に合った、誰もが利用しやすく質の高い公共交通を持続的に確保し、自由に移動ができる生活の実現とまちなかの賑わい向上を目指す。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（計画策定等に係る事業）

令和8年 月 日

協議会名：仙台市交通政策推進協議会

評価対象事業名：利便増進計画策定事業

①補助対象事業者等	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
<p>【事業内容】</p> <p>(1) 利便増進実施計画に関する調査分析</p> <p>①都心内の運行効率化の検討</p> <p>②連節バス・PTPS等導入の検討</p> <p>③路線バスの利便性向上・運行効率化に向けた運賃施策の検討</p> <p>(2) 公共交通ワーキングへの参加</p> <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年度に実施した現地調査により収集したデータを用いて、交通シミュレーションを構築。・今後は、各施策を導入した場合のシミュレーション結果同士を比較し、導入の効果を検証。・また、都心内の運行効率化や運賃施策の検討についても、今後実施を予定。	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>今回の事業で実施した調査分析等によって、連節バスに関わるPTPSやバスレーンなどの各施策の導入効果が明確となった。また、都心内の運行効率化や運賃施策の検討においても、今後検討を進めていくうえでの課題等が明確となった。</p>	<p>仙台市地域公共交通計画に位置づけた個別施策の「バス幹線区間・バス準幹線区間における利便性向上策の実施」について、事業者等との同意のもと、利用者の利便の増進に資する具体的な取組内容を定める「仙台市地域公共交通利便増進実施計画」を変更する予定である。</p>
<p>【二次評価】</p>		